



日本山岳会

2025年7月30日発行 第160号

北海道支部通信

公益社団法人
日本山岳会
北海道支部

支部長
黒川伸一

<https://www.facebook.com/JAChokkaidoYouth>

〔事務局〕〒003-0026 札幌市白石区本通1丁目南2-38 〔事務局長〕清水義浩

北海道支部 60周年記念 東北・北海道地区集会有珠・洞爺で開催

7月11日、12日の両日、北海道支部設立60周年を記念した日本山岳会第38回東北・北海道地区集会在、当支部の主催により洞爺湖有珠山ジオパークで開催された。北海道と東北の支部の会員を中心に98人が集まり、噴火を繰り返してきた有珠山エリアの火山が生み出す美しい景観や温泉の恵み、火山災害の「防災」「減災」を目指す火山マイスター制度など洞爺湖温泉街の官民の取り組みにも触れた。

当支部がこうした交流集会を主催したのは、層雲峡温泉と大雪山系での2018年7月全国支部懇談会以来7年ぶり。

17支部と本部から会員など98人が集う

11日は、洞爺湖町の洞爺湖文化センターでの記念講演。それに先立って会場では参加者に「北海道支部60年のあゆみ」が配布され、黒川支部長が歓迎の挨拶の中で支部の歴史を紹介した。



乾杯で交流を深める参加者〈懇親会〉



火山との共生について語る川南恵美子さん〈記念講演〉

記念講演を行ったのは、2000年の有珠山噴火を洞爺湖温泉の宿の女将として経験し、火山マイスターの取りまとめ役として尽力してきた川南恵美子・NPO法人洞爺湖有珠火山マイスターネットワーク事務局長。「有珠山とともに生きる一火山との共生が教えてくれたこと」と題して話をされた。

(2面に続く)

【目次】

- 東北・北海道地区集開催 1 - 2
- 北海道支部総会開催、役員を改選 3
- 「花パト」自然保護研修会を開催 4
- 沢登り研修報告 6
- 山行報告 7 - 9
- 全国支部懇談会のご案内 11
- 今後の主な山行予定 12

編集・レイアウト：田中健

(1 面の続き)

川南さんは「有珠山は前兆地震が噴火の始まりを教えてくれる山」とした上で、「(昭和新山の生成過程を記録した) 三松正夫という先人以来、火山を敵とせず、共生する姿勢こそ、私たち火山マイスターに受け継がれた DNA」と、マイスター制度の意義を唱えた。さらに、世界の活火山の 7%が集まる日本では「もっと火山のことを知るべき」とも強調した。

講演後は金比羅火口災害遺構散策路を見学。会場を洞爺観光ホテルに移した懇親会では、各支部からの報告が行われるなど懇親を深め、湖上花火も楽しんだ。

3 コースで火山を身近に体感

12 日の交流登山は、A コース:有珠山火口原 (1977 年噴火現場)、B コース:昭和山 (1943 ~ 45 年噴火現場)、C コース:西山山麓 (2000 年噴火現場) の 3 パーティーに分かれて、火山マイスターのガイドで、それぞれ立ち入り禁止・規制エリアに入り、20 ~ 30 年周期で噴火してきた有珠山エリアの得意な景観や噴火災害、地熱の高さ、火山ガスや蒸気が今なお噴出する実情に触れ、「身近な火山」を体感した。

11 日に、記念講演に先立って行われた支部長・事務局局長会議では、来年の第 39 回集会在、7 月に秋田支部の主催で、同県大潟村にて開催されることが決まった。
(文:黒川伸一 写真:高尾美緒、藤木俊三、田中健、齋藤幸市)
○北海道支部参加者 荒田孝司、一鐵巖、今田美知子、小野浩二、金子由美子、神山順子、川辺マリ子、神原照子、菊地宏治、北川麻利子、久保田優一、黒川伸一、齋藤幸市、齊藤宣明、佐藤精久、清水義浩、杉浦良文、助田梨枝子、須田康仁、高尾美緒、高橋健、田島祥光、田中健、中沢友佑、西山泰正、芳賀孝郎、橋本一郎、藤木俊三、藤田宗昭、藤野和男、三浦一恵、山崎邦子、吉田郁子、李曼葛、和田マサコ、渡辺悌二 〈会友〉山水秀美



西山山麓の地盤隆起の痕跡に立つ 〈C コース〉



火山ガスが噴出する有珠山火口原に行く 〈A コース〉



有珠山火口原で記念撮影 〈A コース〉



昭和山山頂へ向かって登る 〈B コース〉



昭和山山頂手前で洞爺湖をバックに 〈B コース〉

2025 年度日本山岳会北海道支部総会を開催、役員を改選

2025 年度北海道支部総会を 5 月 25 日 (日)、札幌エルプラザ大研修室で開催、各議案の審議、採決を行った。その中で役員 (常任委員会の委員、準委員) を増強するために規約を改正し、事務局を 2 人体制にしたほか役員を 4 人増やした新たな体制を決めた。総会終了後は札幌駅前の居酒屋で懇親会を開き、交流を深めた。

井田事務局長の司会で進行し、2024 年度の物故会員に黙祷を捧げた後に黒川支部長が「会員、会友にとってより良い運営を目指すため協力をお願いしたい」とあいさつ。議長には中沢友佑会員が選出され、今総会には会員 28 人が出席し、委任状提出の会員 69 人と合わせて 97 人と、5 月 24 日時点の在籍会員の過半数を超え総会が成立することが報告され、議案審議に入った。

1 号議案は 2024 年度の事業報告。支部山行や、岩登り、沢登り、氷雪などの技術研修、「山の天気ライブ授業」や「デナリ大縦走報告会」などの公益事業、高山植物盗掘防止パトロール等の自然保護活動、他山岳団体と協力しての空沼岳 - 札幌岳縦走路整備、日本山岳会創立 120 周年記念事業「日本の山岳古道 120 選」に選定された道内の古道の調査、また会員増強の取り組みなどについて、支部長や担当役員が説明を行った。2 号議案として 2024 年度の収支決算、3 号議案として会計監事による監査報告が行われたのち、1 号から 3 号までの議案が一括で採決され、満場一致で承認された。

4 号議案は 2025 年度事業計画。支部創立 60 周年を記念して洞爺湖有珠山ジオパークで 7 月に開催する東北・北海道地区集会をはじめ、支部山行、登山技術研修、公益事業等の計画の概要、各種会合、集会の予定などが事務局から提案された。続いて 5 号議案として会計担

当から 2025 年度収支予算案について説明が行われた。

今年は役員改選の年にあたるため、役員数を増やして各役員の負担を減らし活動を活性化させるための支部規約改正案が 6 号議案として提案され、7 号議案として事務局推薦の役員候補が示された。4 号から 7 号までの議案も一括採決の結果、満場一致で承認された。

規約改正は 1. 支部役員を「数名」としてきた規定を実情に合わせて「必要数配置」に修正 2. 事務局を 2 人体制 (事務局長と事務局次長) に増強 3. これまでオブザーバーと呼称してきた役員を「常任準委員」と明示した上で、支部役員体制を常任委員と常任準委員による構成に変更という内容。

今回の改選により井田雅之事務局長は退任し、清水義浩、北川麻利子、藤田宗昭、菊地宏治、須田康仁会員の 5 人が常任委員、齋藤幸市、佐藤精久、高尾美緒、工藤嘉高の 4 人が常任準委員として新役員に選任された。支部長は黒川伸一会員が留任。新事務局長には清水義浩会員、新設の事務局次長には齊藤宣明会員が就任した。神埜会員は、常任委員に選任された須田会員の後任として会計幹事に就任した。2025-2026 年度の新役員体制は下記のとおり。それぞれの得意分野で支部活動を先導してもらうべく担当を決め、1 回目の常任委員会で役割分掌の趣旨や委嘱内容を説明した。

○総会出席者 荒田孝司、井田雅之、一鐵巖、金子由美子、菊地宏治、北川麻利子、黒川伸一、小玉孝之、小松理恵子、齊藤宣明、坂上信之、清水義浩、鈴木貞信、須田康仁、高尾美緒、高橋健、田中健、中沢友佑、芳賀淳子、芳賀孝郎、橋本一郎、藤木俊三、藤田宗昭、八木橋貞美、山崎邦子、横山諒平、吉田郁子、和田マサコ

支部役員を 19 人に増員／事務局次長を新設／事務局長には清水義浩会員

公益社団法人日本山岳会北海道支部 2025・2026 年度役員

【支部長】黒川伸一 (運営全般・山行・雪崩対策) 【副支部長】渡辺悌二 (北大連携)、田中健 (会報・年報)
【事務局長】清水義浩 (運営全般・集会等総務・名簿管理)
【事務局次長】齊藤宣明 (運営全般・集会等総務・名簿管理)
【常任委員】藤木俊三 (会計・自然保護)、荒田孝司 (ルーム・山岳古道)、小松理恵子 (自然保護・IT)、山崎邦子 (山行・雪崩対策)、谷口美咲 (ルーム)、北川麻利子 (ルーム・会計)、高橋健 (日高山脈)、藤田宗昭 (総務・登山全般)、菊地宏治 (自然保護・夕張山地)、須田康仁 (会計)
【常任準委員】齋藤幸市 (登攀)、工藤嘉高 (雪崩対策ユース交流)、佐藤精久 (山行増毛山道)、高尾美緒 (山行)
【会計監事】神埜和之 (ルーム担当兼務)、坂上信之 (2026 年まで 1 年間)

2025 年度「花パト」自然保護研修会開催

小松理恵子

北海道からの委託を受けて公益事業として毎年実施している、大雪山国立公園における高山植物盗掘防止パトロール（通称：花パト）は、本年度は 43 名の会員・会友が登録し、6 月 1 日から 10 月 10 日までの期間で活動を実施中です。

活動開始に先立つ 5 月 16 日、札幌エルプラザ環境研修室に 22 名が集まり、自然保護研修会を開催。北海道環境生活部自然環境局自然環境課企画調整係の玉川裕主査からパトロール業務に関する説明がありました。

続いて「未来に残したい エゾナキウサギのすむ景色」と題した、ナキウサギふぁんくらぶ代表・市川利美さんの講演（写真）。北海道をはじめ世界各地のナキウサギに関する動画やスライドを交え、彼らの生態や直面する厳しい環境について分かりやすくご紹介いただきました。

登山者にも親しみ深いエゾナキウサギですが、開発や温暖化の影響によって生息地が脅かされ、個体数の減少が懸念されています。北海道にのみ生息するにもかかわらず、天然記念物には指定されておらず、環境省のレッドリストでは「準絶滅危惧種」に分類されています。現在、大雪山国立公園内の一部が天然保護区域とされていますが、それでも全ての生息地を網羅するには至っていません。

今回の講演を通して、エゾナキウサギをはじめとする北海道の豊かな野生生物と自然を未来へと繋ぐ責任の重さを、改めて感じる機会となりました。（写真：田中健）
＊ナキウサギふぁんくらぶの活動については下記のウェブサイト参照（「ナキウサギふぁんくらぶ」で検索も可）。
<https://www.pikafan.com/fanclub/>



○出席者 今田美知子、北川麻利子、黒川伸一、小松理恵子、佐々木美恵、清水義浩、鈴木由香、須田康仁、田中清子、田中健、中沢友佑、橋本一郎、藤木俊三、藤原千恵、三浦一恵、吉田郁子、和田マサコ（会友）鈴木エイ子、田中智子、藤原仁、山水秀美、李曼葛

■資料配布・お問い合わせについて

研修会を欠席された登録メンバーには、出席者に配布した資料をメールで送信いたしました。継続参加されている方が多く、資料内容も大幅な変更がないため、このような対応としましたが、紙媒体をご希望の方には郵送しますので、下記までご連絡ください。

なおメールでのお問い合わせには返信が遅れる場合がありますので、お急ぎの際はお電話ください。

【問い合わせ先】小松理恵子

白石ルームの清掃は 8 月 30 日に実施 ご協力ください

毎年恒例となっています白石ルームの布団干し、室内清掃、庭の雑草刈り、庭木の剪定などの作業を、今年は右記の日程・要領で実施することになりました。ご協力いただけるようお願い申し上げます。

なお、昼食の用意と作業終了後のおやつタイムの準備がありますので、参加される方は荒田までご連絡くださるようお願いいたします。

白石ルーム 清掃日

【日時】8 月 30 日 午前 9 時 30 分～

【場所】白石ルーム

【連絡先】荒田孝司

【白石ルーム担当】北川麻利子、谷口美咲、神埜和之、荒田孝司

会員・会友の動向

■新入会員 いしてあらい やすし 石手洗 庸 申請中

高山植物盗掘防止合同パトロールに参加

小松理恵子

昨年は悪天候のために当支部からの参加は見合わせた大雪山の高山植物盗掘防止合同パトロール、今年は 7 月 5 日（土）に大雪山系の銀泉台～赤岳～小泉岳にて実施され、北海道上川総合振興局、環境省、北海道警察、NPO 法人かむい、自然保護観察員、そして日本山岳会北海道支部からは会員・会友 6 名が参加、総勢 17 名でのパトロールとなりました。

当日は、旭川市内で最高気温 32.9℃を記録したほどで、盛夏の快晴。登山日和の一日となりました。銀泉台の駐車場は我々が到着した 6 時 50 分には既に満車で、路肩に多数の車両が駐車する混雑ぶりでした。

この合同パトロールは、高山植物の保護意識向上と安全登山の啓発を目的に、登山者の増加が見込まれる夏山シーズンに毎年実施され、登山者へのパンフレット配布を通じて、自然保護の重要性和マナー向上を呼びかけています。

午前 8 時 20 分に銀泉台を出発し（①）、第一花園の雪渓を通過。登山道沿いの高山植物は花が見頃を迎えており、コマクサ平では、コマクサの群生をはじめ、チン



グルマ、イワブクロ、キバナシオガマなどが彩り豊かに咲き誇っていました。また、ここに 2022 年に整備された木造の携帯トイレブースは多くの登山者に利用されており、携帯トイレの普及が着実に進んでいる様子を確認できました。

今回のパトロールでは、登山アプリ等の影響により立入禁止区域に踏み込む登山者が増えていることを受け、赤岳周辺にロープを設置する作業も実施。パトロールメンバーは、ロープを張る杭を担いで登り、多くの登山者に声を掛けながらパンフレットを手渡し（②）、啓発活動を行いました。

赤岳で作業用の荷物を下ろした後は小泉岳へ。ウルップソウやチョウノスケソウが見頃でした。赤岳に戻ってロープ張りの作業を行った後、山頂にて参加者全員で記念撮影を行い、無事に下山。16：30 に解散式を行い、パトロールは終了となりました。（写真：藤木俊三）

○支部参加者 小松理恵子、須田康仁、藤木俊三、三浦一恵、山内忠（会友）藤原仁

高澤光雄会員が第 2 回清水敏一大雪山賞を受賞

当支部の会員・元副支部長兼事務局長で北海道登山史研究の第一人者である高澤光雄さんが、東川町が大雪山の振興と発展に貢献した個人・団体を表彰する第 2 回「清水敏一大雪山賞」（個人の部）を受賞しました。6 月 21 日に東川町で開催された『旭岳 山のまつり』の中で行われた表彰式には、高澤さんが所属する日本山書の会と当支部の会員でもある久保田優一さんと、日本山書の会の花島徳夫代表が、施設で療養中の高澤さんに替わって出席しました。

清水敏一大雪山賞は、大雪山に関する膨大な文献や資料を収集、東川町に寄贈して「大雪山アーカイブス」を開設するきっかけを作り、惜しくも 2023 年 3 月に逝去された清水敏一氏の名を冠した賞。清水さんから東

川町への寄付を原資として設置された「大雪山文化振興基金」により、昨年から表彰を行っています。

高澤さんへの授賞は、大雪山および北海道の山の文化・歴史についての執筆や講演活動に対してのもの。今年は他に団体の部として大雪山国立公園パークボランティア連絡会が受賞しました。



高澤光雄会員
（写真：黒川伸一）

沢登り研修●鷲別岳＝室蘭岳 裏沢～滝沢周回

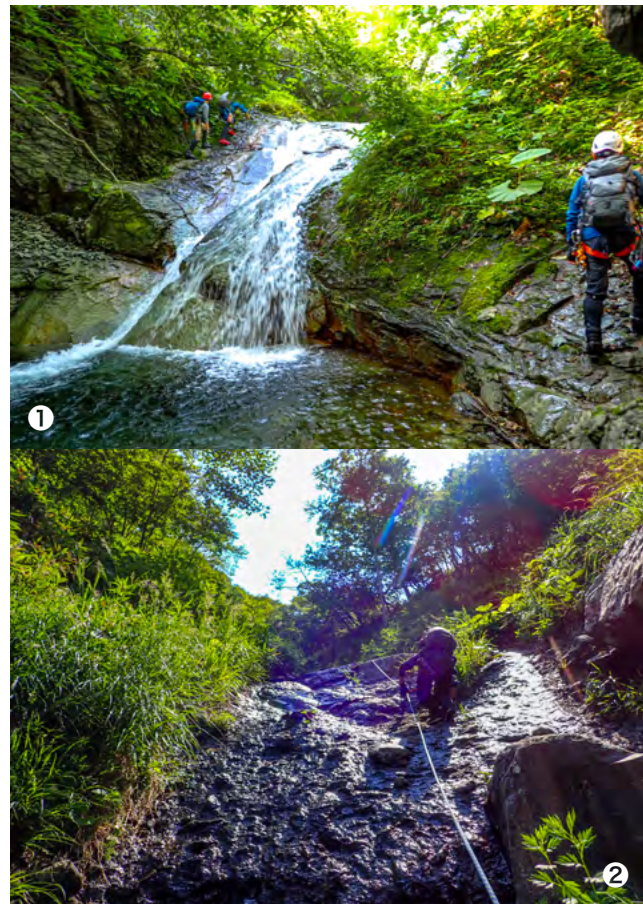
黒川伸一

沢登りの基本を改めて学ぶ毎年恒例の研修山行、今年は 6 月 29 日に鷲別岳＝室蘭岳の裏沢（遡行）と滝沢（下降）で、ロープワークの訓練を兼ねて実施した。横山諒平会員にとっては初めての沢登りであり、入門山行と位置付けて事前に白石ルームで懸垂下降のセットの仕方など、ロープワークの基本を学んでもらい、沢装備を揃えて本番にのぞんだ。

前日 28 日に、登山口に近い登別市鉾山町のネイチャーセンター「ふおれすと鉾山（旧鉾山小・中学校跡）」に 7 人で宿泊し、白老町虎杖浜で仕入れたカニなどを食材に懇親して翌 29 日を迎えた。

ふおれすと鉾山に近い鷲別来馬川支流・滝ノ沢林道に車 2 台をデポして、牛舎奥林道最奥の駐車場からスタート。せっかくなので、鷲別来馬川沿いにある野湯・川又温泉を訪ねる。駐車場から徒歩 15 分、アイヌの人たちの間で古くから「クスリアフブカルシ（薬湯をよくもらうところ）」と呼ばれ、明治 41 年（1908 年）に川又兵吉が発見、昭和 7 年（1932 年）に建てられた湯治用宿舎跡には浴槽だけが残り、しばし沢沿いに湧き出る温めの湯につかり、往時に思いをはせる。

川又温泉から鷲別来馬川二股まで戻り、その支流であ



る裏沢に入渓する。美しいナメや釜、ゴルジュに挟まれるような滝（①）が時折り出てくる沢を、何箇所かの二股を左、左と進み、のっぺりしたナメ滝ではロープをフィックスし、一か所ではブルージックを使い（②）、もう一か所は「ごぼう抜き」で登る。

北尾根稜線直下は急登の土壁となり、落石のリスクもありロープフィックスも交えて尾根にたどり着く。後は尾根上にある踏み跡をたどって、照り付ける夏の日差しの中、山頂まで息を切らしながら上がった。

山頂で大休止のあとはカムイヌプリまでの登山道をたどって滝沢下降地点から滝沢へ。この日は暑かったため滝沢の沢水につかると心地よかった。

滝沢では当初から懸垂下降を想定していたので、横山会員も含め全員に懸垂下降を行ってもらい（③）、リーダーや他のメンバーがレクチャーを行った。

きれいな沢筋をそのまま下降し（④）、滝沢林道に出て車デポ地点まで歩き、スタート地点まで移動して周回山行を終えた。

（写真：黒川伸一・田中健）

○参加者 CL 黒川伸一、SL 田中健、小玉孝之、今芳文、名和田豊、横山諒平 〈会員外〉新田聡

赤岳 - 銀泉台で今シーズン滑り納め

6 月 14 日【山スキー】 高尾美緒

今年も 6 月中旬の 12 日に銀泉台への道道が開通。高山植物のお花見とスキーが同時に楽しめるこの時期の大雪山は毎年訪れたい場所だ。

銀泉台へ向かう途中、下山箇所第一雪渓が道路まで繋がっているのを確認して車を一台デポ、銀泉台駐車場に 6 時前に到着し、シートラゲンでスタート。直前の情報通り、例年より残雪が多い。第一雪渓をトラバースするところは NPO 法人かむいの手によってキレイにカッティングされていたが、念のためにチェーンアイゼンを装置。夏道と雪渓が交互にあるため、肩に食い込むザックは重い、結果的には登山靴&シートラが正解だった。

こまくさ平周辺の高山植物は、キバナシャクナゲ（①）、ミネズオウは満開、イワウメやコマクサは咲き始めで、例年より開花は遅めのよう。第四雪渓を登り切ったところでスキーをデポして赤岳山頂へ（②）。ここから眺める



大雪山の山々の白と緑のコントラストが美しい。

そして、いよいよスキー滑走（③）。雪は柔らかく、スプーンカットや縦溝も無く、とても素晴らしいザラメ。程よい傾斜の雪渓をあっという間に滑り下りる。下山すると南の空に虹色の雲が…レアな現象、環水平アークが見られた。晴天に恵まれ、最高のシーズン滑り納めとなった。

○参加者 L 高尾美緒、黒川伸一、今芳文、齊藤宣明、佐藤正倫、横山諒平

支部長・支部会員の編著による「北海道の脊梁 日高山脈」出版

2024 年 6 月の日高山脈襟裳十勝国立公園誕生から 1 年になるのに合わせて 5 月 15 日、企画本「北海道の脊梁 日高山脈」が、北海道支部の会員を中心とした編集委員会方式で共同文化社（札幌）から出版された。

この本の編集委員は、当支部所属の黒川伸一、小野浩二、植田拓史の 3 会員に加え、団体会員の北大山の会の小泉章夫元会長、そして共同文化社の奥山敏康社長の 5 人。昨年 2 月以来、構想を練って取材と編集作業を重ね、1 年がかりで「山と人」を切り口に紙面を構成、黒川会員が編著者となって仕上げた。

巻頭言のあと、①パイオニアたちの感慨、②貴重な自然の恵み、③悲喜こもごもの登山史、④魅惑の登山フィード、⑤山麓に残された記憶、⑥日高山脈の主役と脇役、⑦日高山脈の山里の 7 章仕立ての構成。

山岳古道開削や登山を通じて分かってきたこの山脈の奥深さや陰しさ、自然や地形・地質の貴重さ、ルート開拓や初登頂をめぐるパイオニアたちの感慨やせめぎあい、

重大な遭難をめぐるドラマ、電源開発や道路開発に伴う埋もれがちな歴史、山麓から見た山並みの美しさにこだわった山岳画家の生き様などに光を当てている。山脈形成のメカニズムと、中でも特異な地質構造ゆえに固有な植物が多いアポイ岳周辺の貴重さにも紙幅を割いた。

北海道の脊梁

日高山脈

A4 変型版

オールカラー

全 192 頁

掲載写真約 300 点

本体価格 2700 円

（税込 2970 円）

初版発行部数 3 千部

※お求めは主要書店、

アマゾン、共同文化

社ホームページで



北戸蔦別岳登山道整備登山

6 月 15 日【登山道】

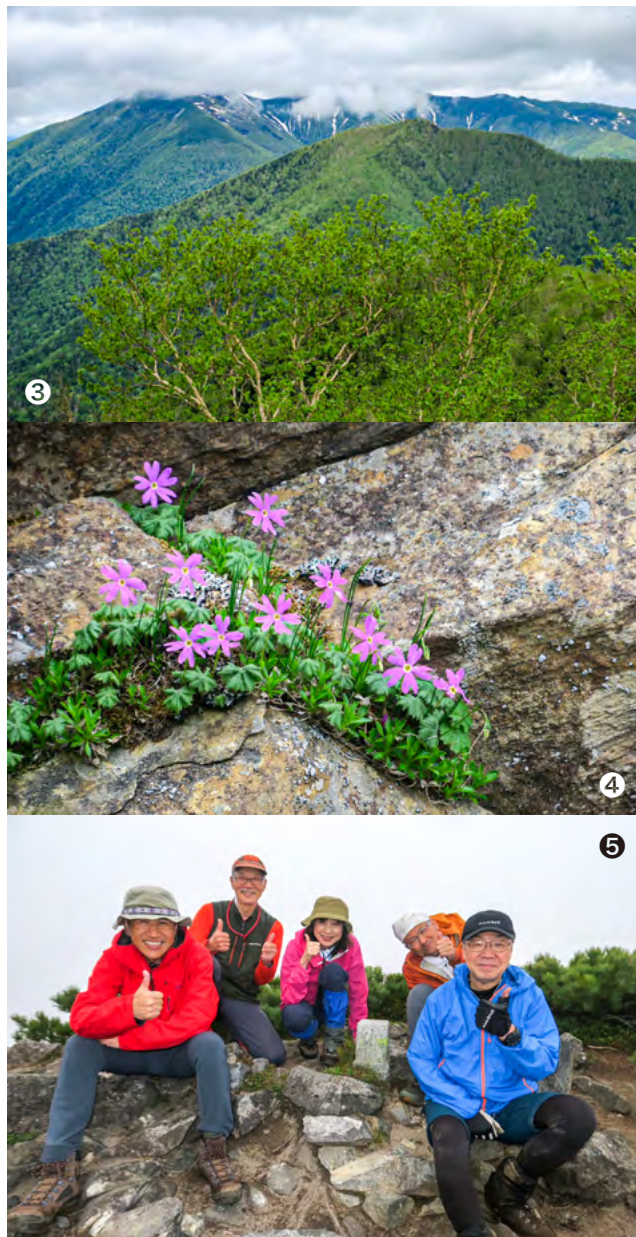
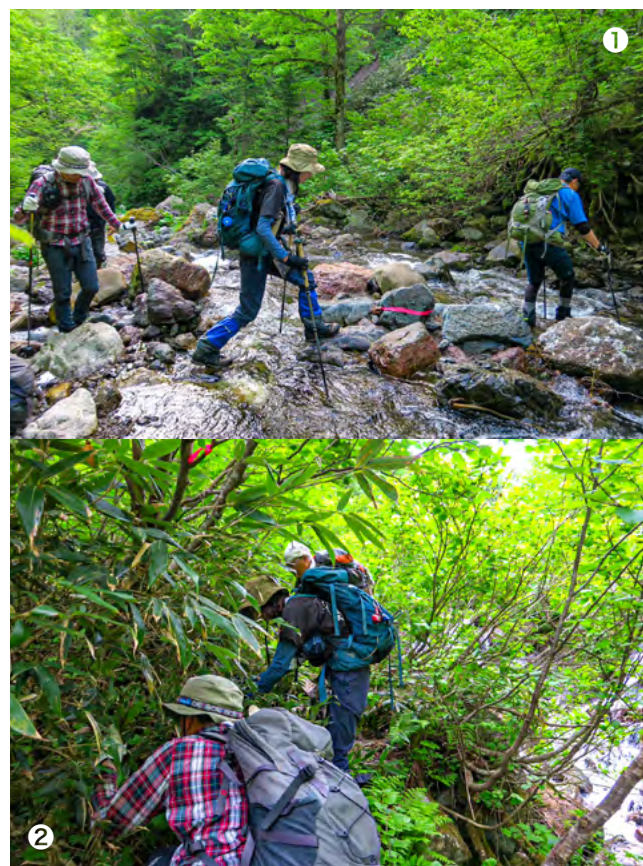
高橋健

6 月 15 日（日）、当支部が構成員となっている日高山脈登山会議（議長：日高町長／事務局：日高町役場）主催の北戸蔦別岳登山道整備が、当支部から藤木俊三、坂本明美、高橋健（日高山脈登山会議事務局及び日高山脈ファンクラブ事務局兼務）の 3 名、その他の日高山脈ファンクラブ会員 3 名、合わせて 6 名の参加により行われた。

午前 4 時に日高町日高総合支所に集合し、町車両等に分乗し、登山口へ向かう。今回は登山道整備のため、電力会社専用道路を走行して取水ダムまで車両で乗り入れる。

各自、日高山脈登山会議が準備した剪定ばさみなどのこぎりを持って入山。二岐沢二の沢出合までは日高山脈登山会議による笹刈りが終了していたので歩きやすかった。二岐沢二の沢渡渉地点（①）から上の登山道の笹や枝の刈り払い（②）を行いながら登っていく。標高 1100m の尾根取付付近に若干の雪渓が残っていた。ここで沢と別れて尾根を急登し、笹の深いところを剪定ばさみで刈りながら進む。

トツタの泉でのどを潤し、更に刈り払いしながら行くとチロ口岳の西峰と本峰が遠望できる（③）が、稜線が



近づくにつれガスが登ってくる。ヌカビラ岳直下のかんらん岩帯には超塩基性岩帯の高山植物であるカムイコザクラがあちらこちらに咲いていて、疲れた体を癒やしてくれる（④）。

北戸蔦別岳山頂まで行く時間的余裕が無くなってきたので、二等三角点の設置されているヌカビラ岳を今回のゴールとし（⑤）、ガスの中、昼食をとって下山する。途中、笹の深いところを刈り払いし、トツタの泉で顔を洗い、のどを潤し、一気に急登を下山した。

北戸蔦別岳経由で幌尻岳を目指す登山者は、昨シーズン 3 カ月の入林簿記載者だけで 1,150 人、実際には倍以上いると思われ、そのほとんどが日帰り強行登山。今回の整備が道迷いの防止に一役買ったと思う。

（写真：藤木俊三）

○支部参加者 坂本明美、高橋健、藤木俊三

空沼岳 - 札幌岳縦走

6 月 28 日-29 日【登山道】 山内忠

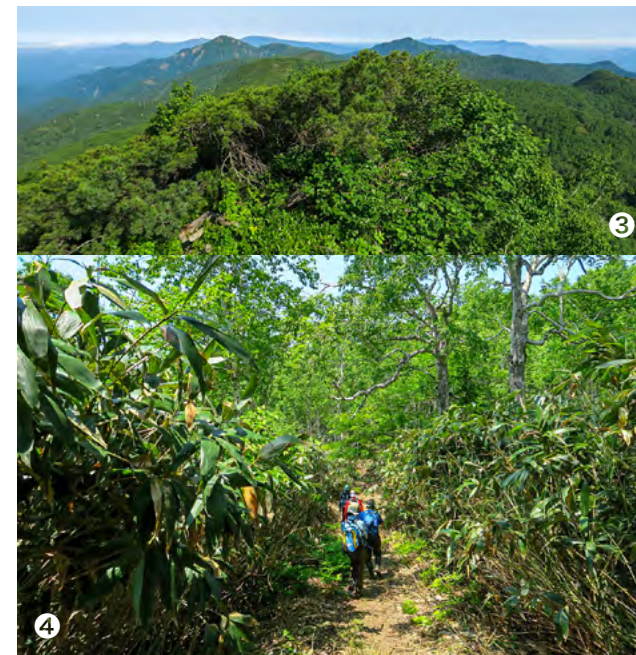
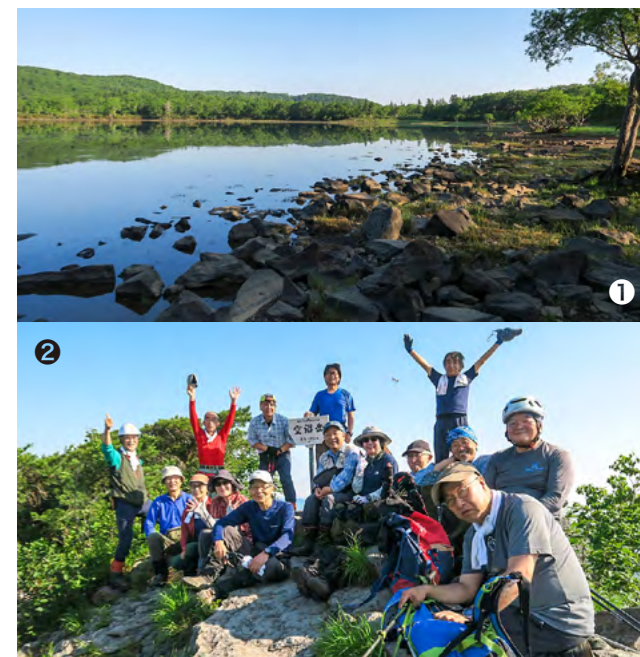
札幌岳－空沼岳の縦走路は、長らく手入れがされず藪に覆われていたが、昨年、当会を含む山岳団体による刈り払いで復活した。私は昨年も含め 3 回、この縦走路の笹刈りに参加しているが、展望のない笹のトンネルのイメージが強く、今まで通して歩いたことはなかった。

今回は 14 名と大人数。札幌岳の冷水沢登山口に車をデポし 4 台で万計山荘へ向かうと、橋本一郎さんから「俺を置き去りにしてないか」と電話が入る軽いハプニング。小屋では管理人と他会の 2 名を交え水炊きを囲んでの宴会。盛り上がりすぎ、他から「うるさい」と叱られる一幕も。場は一瞬沈黙するが、管理人の「就寝時間は 10 時なんだよな」の一言。「なんだ、まだ 9 時だべや」と飲み直し、反省と笑いが交錯する夜となった。

翌日、まだ薄暗い万計沼に鳥のさえずりが響き、朝日がゆっくりと射し始める。出発すると、昨年は酷かった枝の垂れ下がりや、ぬかるみもなくすっきりしていた。一時間で真簾沼に到着。湖面は凪ぎ、鏡のように澄み渡っていた（①）。湖岸には草を食むエゾシカの親子がたたずみ、穏やかな風景に心和む。

まだ 7 時だが、じわじわ気温が上がる中、稜線分岐から 10 分の空沼岳山頂に立った（②）。三度目の正直で眺望が得られたと喜ぶ山水さん。これまでで一番の展望だった。羊蹄山、恵庭岳、手稲山、定天、無意根山、余市岳がぐるりと見渡せ、札幌岳も遠く見える（③）。

分岐に戻って本日のメインイベント、札幌岳まで 6.5km の縦走が始まる（④）。道は昨年より広くなり、ロー



プも設置されて登山道らしくなっていた。とはいえ、笹の刈り残しもあり、斜面のトラバース箇所などは歩き難い。やがて視界が開け、先ほどの真簾沼が下に姿を現す。ここで後続を待つが、この日の気温は 30℃を超え、湿度も高く、メンバーの足取りは重い。中間地点に佇むヒョウタン沼を見下ろしながら再び小休止。この沼を目にするのは初めてだったが、暑さと疲労で感慨は今ひとつ。

やがて、札幌岳側から空沼岳へと縦走する登山者とすれ違うようになる。大半は日帰りのピストン組だが、急に縦走者が増えたのは、いつまた廃道になるかわからない、という思いからだろう。その中に当支部の小野浩二さんの姿も……暑さの中、黙々と登る姿に励まされる。

道は次第に良くなり、ガマ沢の源頭も奇麗に刈り払われて、昔の面影はなかった。豊滝コース分岐で少し元気になり、程なく賑わう札幌岳山頂に到着。景色は霞み、焼けつく岩と容赦ない陽射しに、早々に下山にかかった。

私より 20 歳も年上の鈴木貞信さんが先頭グループにいらしたことに感銘を受けた。その歩みは終始変わらず、淡々と進んでいく後ろ姿に、ただただ敬服するばかりだった。一方で、体力差から先頭と最後尾が大きく離れてしまった点は、今後の反省材料。6 月とは思えない酷暑で厳しい山行となったが、往年の人気ルートを無事縦走できたことに満足している。一人の落後者も出すことなく終えられたのは、リーダーの藤木さんの細やかな配慮のおかげであり、心から感謝したい。（写真：藤木俊三）

○参加者 L 藤木俊三、井田雅之、神埜和之、佐藤眞、清水義浩、鈴木貞信、須田康仁、橋本一郎、山内忠、山崎邦子、三浦一恵 〈会友〉藤原仁、山水秀美 〈部外〉岡誠二

京極紘一会員に関する企画展示を見る東川町ツアー

藤木俊三

東川町の図書館なども兼ねた交流施設せんとびゅあⅡ内の「大雪山アーカイブス」で 4 月 8 日～6 月 8 日の 2 カ月間、「クライマー京極紘一と北海道 150 座」と題した企画展示が行われました。

当支部の京極紘一会員は、北海岳友会のメンバーとして芦別岳や利尻山などの岩壁に初登攀ルートを開拓するなど道内のロッククライミングをリードしたクライマーのひとりです。また、カフカズ、ヒマラヤ、アラスカ、カムチャツカ半島など海外の山にも数多くの足跡を残し、困難な初登攀も成し遂げています。そして京極さんのもう一つの偉大な記録が「道内の 1500m 以上の山 150 座を夏・冬両シーズン踏破」です。東川町の企画展示は、そんな京極さんの数々の登攀や登山の記録を、関係する書籍や写真で紹介したものです。

清水義浩会員の発案で、京極さんも含めた会員・会友でこの企画展を観に行こうということになり、参加者を募ったところ、13 名（うち 1 名は北海岳友会関係者）が集まりました。残念ながら京極さん本人は体調を崩して参加できませんでしたが、5 月 31 日（土）～6 月 1 日（日）に 1 泊 2 日の東川町ツアーを実施しました。

31 日、札幌から車 4 台に分乗して 13 名がお昼ごろ東川町に到着、さっそく大雪山アーカイブスの一角に展



示された資料をじっくりと閲覧、京極さんの素晴らしい「山歴」を再確認しました。このあと近くの東川町文化ギャラリーで開催中の東川在住の写真家・奥田實さんの写真展「ボタニカル フォトコラージュ」を見学しました。

この日はキトウシ森林公園のケビンを 2 棟借りて宿泊、夕食はジンギスカンや焼きそばなどで懇親会を行いました。ここには、旭川の黒田忠会員も手作りの行者ニンニク入り餃子を持参して参加、にぎやかな宴となりました。

翌日はキトウシ森林公園の展望閣から快晴の青空の下に広がるパノラマを見たあと、忠別ダムの展望台で残雪の旭岳をバックに記念写真を撮り、「大雪旭岳源水」を散策、その後、旭川で黒田会員が勤務する旭川文学資料館を訪ね、黒田さんの解説を聞きながら井上靖、安部公房など旭川ゆかりの作家に関する資料を見せてもらいました。旭川ラーメン村で昼食後、旭川彫刻美術館、井上靖記念館などを観て解散となり、それぞれ帰路につきました。

○参加者 一鐵巖、金子由美子、坂上信之、清水義浩、銭亀三佐子、中沢友佑、新井田幸子、芳賀孝郎、畠山勝、畠山迪子、藤木俊三、李曼葛
〈会員外〉渡辺信英（北海岳友会）
〈懇親会のみ〉黒田忠



第 38 回 全国支部懇談会・関西支部 90 周年記念式典開催のご案内

日本山岳会最初の支部として昭和 10 年に設立された関西支部の 90 周年を記念する記念式典が、第 38 回全国支部懇談会と併せて開催されます。

記念講演は、1970～90 年代にエベレスト、K2 などの登山隊を成功に導き、現在進行中の日本山岳会 120 周年記念事業「グレート・ヒマラヤ・トラバース」に至るまで、日本のヒマラヤ登山の第一人者として長らくヒマラヤ登山にかかわってきた重廣恒夫元関西支部長による「ヒマラヤ今昔」です。

記念山行は東海自然歩道の西の起点「明治の森箕面国定公園」の箕面大滝から勝尾寺までを歩きます。

第 38 回全国支部懇談会・関西支部 90 周年記念式典

【日時】 10月26日（日）- 10月27日（月）

【会場】 大阪ガーデンパレス（大阪市淀川区西宮原 1-3-5）hoterugp-osaka.com

JR新大阪駅より徒歩 10 分（シャトルバスあり）

【主催】 公益社団法人 日本山岳会関西支部

【参加資格】 日本山岳会会員、準会員、会友及び関係者

【日程】 10 月 26 日（日）

●受付開始 13:30 ●記念式典 14:30- 記念講演「ヒマラヤ今昔」 重廣恒夫 ●懇親会 18:30-

10 月 27 日（月）

●記念山行 箕面大滝 - 東海自然歩道 - 勝尾寺 ●記念観光 箕面大滝と勝尾寺 15:00 頃 解散

【記念講演】「ヒマラヤ今昔」

重廣恒夫講師プロフィール

1947 年山口県生まれ。中学時代から岩登りを始め、岡山クライマーズ・クラブに所属し国内の困難な岩壁登攀に取り組む（奥鐘山西壁新ルート開拓など）。1973 年エベレスト南西壁登山隊（RCCⅡ隊）に参加、以後日本のヒマラヤ登山の第一人者として、数多くの登山隊を隊員・登攀隊長・隊長として成功に導く。〈主な登山歴〉K2 第 2 登（日本人初）、ラトックⅠ峰南壁初登攀、チョモランマ北壁初登攀、カンチェンジュンガ縦走、マッシャーブルム北西壁初登攀、チョモランマ交差縦走（日・中・ネ三国友好登山隊）、ナムチャバルワ初登頂、マカルー東稜初登攀、ナンガマリⅡ峰初登頂。日本百名山 123 日間連続踏破。2020 年より日本山岳会 120 周年事業としてカンチェンジュンガから K2 までの「グレート・ヒマラヤ・トラバース」踏査。日本山岳会副会長、関西支部長を歴任。文部省登山研修所（現 国立登山研修所）講師、関西支部登山教室講師などで後進の育成に力を注ぐ。六甲山の森づくりなど自然保護活動にも取り組む。

【記念山行】「箕面大滝～東海自然歩道～勝尾寺」

ホテル（バス）大滝駐車場～箕面大滝～雲隣展望台～東海自然歩道起点～開成皇子墓（最勝ヶ峰）

～勝尾寺園地～勝尾寺（バス）ホテルもしくは新大阪駅 15 時頃解散予定。

行動時間 4 時間半程度 箕面大滝：標高 194m 最高高度 540m。

【記念観光】箕面大滝と勝尾寺

ホテル（バス）箕面大滝（バス）勝尾寺（バス）ホテルまたは新大阪駅 15 時頃予定 ＊参拝料は各自負担
箕面大滝：「日本の滝百選」「日本百景」に選ばれている落差 33m の名瀑。

勝尾寺：高野山真言宗の寺院。西国三十三所の二十三番札所。「勝だるま」が有名。

【参加費用】 25,000 円／人（式典、懇親会、宿泊、朝食、弁当、バス代含む）

＊部分参加可 式典・講演会（一般参加可）無料／懇親会 8,500 円／

宿泊（1 泊朝食付）13,000 円／記念山行、観光 3,500 円（弁当・お茶付）

【申込締切】 8 月 15 日 【申込方法】 北海道支部で取りまとめて申し込みます。下記宛てにご連絡ください。

【申込先】 清水義浩

今後の主な山行予定

*日程や行き先は変更になる場合があります

- 8月9日(土) ●エサオマントツタベツ川～エサオマントツタベツ岳【沢登り】 L: 山内
～11日(月・祝) 山中テント泊
- 9月7日(日) ●千代志別川 - 雄冬山【沢登り】 L: 佐藤精 増毛町・はまなす会館前泊
- 9月9日(火) ●恵庭岳北東尾根【尾根歩き】 L: 名和田豊 *定員3人
- 9月14日(日) ●南暑寒岳【登山道】 L: 佐藤精 増毛町・はまなす会館前泊
- 9月20日(土) ●支湧別岳【登山道】 L: 高尾美緒 *定員6人(車2台)
～21日(日) キャンプ場前泊または後泊
- 9月30日(火) ●楓沢 - 風不死岳周回【洞門歩き+登山道】 L: 名和田豊 *定員3人
- 10月5日(日) ●ニセイカウシュッペ山 - アンギラス(軍艦山)【紅葉鑑賞、登山道】 L: 佐藤精
層雲峡オートキャンプ場コテージ前泊
- 10月11日(土) ●東ヌプカウシヌプリ【ナキウサギ観察、登山道】/ウペペサンケ山【紅葉鑑賞、登山道】
～12日(日) L: 高尾美緒 *定員6人(車2台) キャンプ場コテージ泊
- 10月17日(金) ●ホロホロ山 - 徳舜瞥山【紅葉鑑賞、登山道】 L: 名和田豊 *定員3人
- 10月18日(土) ●庚申草山等中山峠周辺の山【秋の味覚狙い、登山道】 L: 佐藤精
～19日(日) 中山小屋泊
- 11月1日(土) ●稀府岳/室蘭岳〈お月見山行〉【登山道】 L: 藤木
～2日(日) 室蘭岳山麓総合公園宿泊研修施設泊
- 11月8日(土) ●パゴダの塔(札幌西部の岩山)【登山道+登攀】 L: 佐藤精
*登攀は定員数人/基部までは人数無制限
- 12月6日(土) ●上ホロカメットク山山域【冰雪訓練】 L: 齋藤幸・後藤(申込先=黒川)
～7日(日) 吹上温泉「白銀荘」泊
- 12月20日(土) ●カミフェリア(三段山、前十勝、上富良野岳、富良野岳)【新雪滑降&雪崩対策訓練】
～21日(日) L: 黒川 吹上温泉「白銀荘」泊
- 1月2日(金) ●キロロ・イレブンセブン峰周辺【山スキー】 L: 黒川
- 1月3日(土) ●羊蹄山・マッキモコース【山スキー】 L: 黒川

*支部通信159号掲載の黒川関連の8月～10月の山行計画は、ケガ治療のため中止といたします

*随時山行を企画します。その都度MLや本紙などでお知らせします。

*実施日の1～2週間前までに、各リーダーなどの連絡先までお申し込みください。